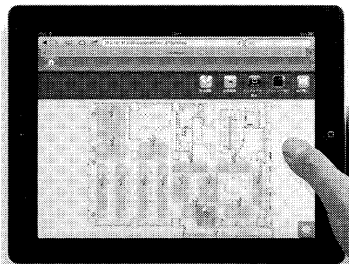


このビルぜんぶ、お手元の
タブレットから統合監視・制御できます。

ビルのスマート化、 はじめます。



■ビル制御画面(照明制御)

「ICTでもっと建築は自由になるはずだ」。そんな思いから誕生した、スマートビル中央制御ソリューション。複雑化、高コスト化が進んでしまったビルの統合監視・制御に、先進のICT技術とセンサーデバイスでスマート化、低コスト化を実現します。ビル全体の設備自由化、はじめるのは、内田洋行です。

内田洋行のビル統合管理システム

無料セミナー開催! IoTで成功に導く施設・設備運用管理

■日時 平成29年6月23日(金) 14:30-17:20 (受付開始14:00) ■主催 株式会社内田洋行 ■定員 100名 ■会費 無料
■会場 内田洋行 新川本社ビル ユビキタス協創広場CANVAS 2F <http://office.uchida.co.jp/seminar/170623.html>

今すぐ検索!

内田洋行 IoT 検索

徹底的! 省エネルギーソリューション

今年の夏こそ一

今年も暑い夏がやってくる。夏になると節電や省エネルギーへの関心が高まるが、省エネ対策は来年、また来年と先延ばしにしているケースも多いのではないだろうか。継続して省エネに取り組むことは、持続可能な経営にとって重要な課題だ。近年、省エネ対策には政府や自治体が積極的な支援を行っており、徹底的な省エネを実現するチャンスとなっている。

快適性と両立

条件に応じて最適化

省エネは快適性や利便性を高め、継続して取り組めるようにすることが求められる。空調や照明などの設備機器は最新のものに入れ替えるだけで、省エネ効果が大きい。最近ではIoT(モノのインターネット)など新しい技術を活用した、より効果的な省エネも進んでいる。個別に異なる環境や条件に応じて最適化を図ることが重要だ。

山本哲之内田洋行スマートビル事業推進部長は「エネルギーマネジメントに重要なのは、電力使用状況に関する原因データをつきとめること。IoTを活用して最適に制御することで快適性と省エネの両立を実現できる」と指摘する。

例えば、換気を行う設備機器と空調機は導入時期やメーカー、施工会社が異なることで運動して制御されていないことも多く、外気を取り込みながら冷暖房を効かせていることがあるという。

同社はメーカーごとに仕様の異なる設備機器も統合し、タブレット端末(携帯型情報端末)などでまとめて制御できる。操作もわかりやすく、音声による制御も実現している。

きょう25日から、2017年度「省エネルギー投資促進に向けた支援補助事業」のうち「エネルギー使用合理化当事業者支援事業」の公募が行われる。省エネルギー設備導入が工場・事業場単位か設備単位で申請できる。受け付けは6月26日12時まで。詳細は環境共生イニシアチブのホームページ(<https://sih.or.jp/>)へ。